科目ナンバリング	U-LAS27 20001 SJ48						
授業科目名<英訳>	朝鮮語IIＡ K2101 Intermediate Korean A			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　郭　旻錫		
群	外国語科目群			分野(分類)		使用言語	日本語
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（外国語）（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	木3	配当学年	２回生以上	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

朝鮮語コースの目的は、「朝鮮半島および日韓・日朝関係を文化的・社会的・歴史的な側面において理解し、東アジアにおいて生きていくための自分なりの世界観を身につけるための語学教育」（世界観養成語学教育）である。広義においては「異文化理解」となろうが、単に「異なる文化」を「理解」する、という意味ではなく、自明のものとされがちな「自文化」を相対化し、近接した他者との複雑な関係性のなかでそれを解釈したうえで、今後自らが朝鮮半島とどのような関係をアクチュアルに構築すべきかを考究するために必要な、最低限の語学力を養成することが目的である。
この授業では、朝鮮語の基礎的文法を習得した学生を対象に、中級への橋渡しレベルの文法・語彙・運用能力を訓練しつつ、朝鮮半島の文化・社会・歴史・政治・経済・日本と朝鮮半島の関係について学び、考えてゆく。
【注意】 本学で「朝鮮語」というのは、朝鮮半島すなわち大韓民国（韓国）と朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）で使用されている言語のことである。この両国で使用されている言語には若干の相違が認められるが、大差はない。なお、特に大韓民国で使用されている言語を指すときには「韓国語」という呼称を用いる。

[到達目標]

①中級への橋渡しレベルの文法・語彙・運用能力を身につける。②朝鮮半島の文化・社会・歴史・政治・経済・日本と朝鮮半島の関係について理解する。

[授業計画と内容]

授業は毎回、配布されるプリントの内容に則って進められる。かなりレベルの高い朝鮮語文を毎回日本語に翻訳する。取りあげられるテーマは、朝鮮半島の文化・社会・歴史・政治・経済・日本と朝鮮半島の関係である。
第０１回　イントロダクション
第０２回　「京都大学で韓国哲学を考える」を読む
第０３回　同上
第０４回　同上
第０５回　同上
第０６回　同上
第０７回　同上
第０８回　同上
第０９回　「第二次日韓協約120周年の断想」を読む
第１０回　同上
第１１回　同上
第１２回　同上
第１３回　同上
第１４回　同上
≪定期試験≫
第１５回　フィードバック

朝鮮語IIＡ K2101(2)へ続く↓↓↓

朝鮮語IIA K2101(2)

[履修要件]

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

[成績評価の方法・観点]

成績評価は、平常点（４０%）および定期試験（６０%）によって行う。なお、「平常点」とは、「出席点」のことではないので注意すること。「出席点」という概念はない。 平常点の詳細については授業中に指示する。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回のプリントの文章を単に訳すだけでなく、覚える。またその内容に関して自分の見解を持つ。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]